

Y04b

高校生天体観測ネットワークの2011年度の活動と2012年度に向けての 取り組み

塚田健（平塚市博物館）、大西浩次（長野高専）、小田桐茂良（青森市）、小田玄（修道高校）、小菅京（東工大附属高校）、篠原秀雄（蕨高校）、相馬充（国立天文台）、高村裕三郎（一宮高校）、時政典孝（兵庫県立西はりま天文台）、渡部潤一（国立天文台）、ほか Astro-HS 運営委員

高校生天体観測ネットワーク（Astro-HS）は、全国の高校・高専の天文系部活動等を結ぶネットワークで、学校教員や天文学研究者、科学館職員等、天文教育普及活動に携わる有志によって運営されている。1998年度のしし座流星群を契機に発足、2000年度からは流星群以外にもテーマを広げ、多くの高校生に幅広い天文現象の観測を体験してもらってきた。

2011年度は北海道から沖縄県まで72グループ約950人の高校生が参加している。6月と12月に起こる皆既月食をテーマとし、観測ガイドを作成、web上からダウンロードできるようにした。眼視での観察で月食をじっくり見てもらうことをまずは主眼とし、さらに観測より月の直径や月までの距離を求めること、皆既中の色の変化を記録することなどを提案した。また、全国で同時刻に月食の経過を撮影することにも挑戦し、月食の進行が場所に因らないことを確認してもらう予定である。観測結果は報告してもらい、webページで公開する。

2012年度には5月に金環日食（一部では部分食のみ）、6月に金星の太陽面通過といった天文現象がある。いずれも珍しい天文現象であり、より多くの高校生に体験をしてほしいと考えている。そのための準備も今年度に行う。本発表では、今年度の活動計画およびこれまでの成果について発表するとともに、来年度に向けた準備についても報告・提案をする。